

1 事業名等(Plan 1)

事業名	国際観光都市推進事業											
所属名	商工観光部 観光課 企画・経営グループ											
第七次総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	分野	1	観光	基本 施策	1	人々のところを魅了する滞在型・通年型の観光地づくりを行	施策	1	多様な観光需要への対応
予算科目	6	2	2	国際観光都市推進	費	62200	国際観光推進					事業
					費							事業
					費							事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市産業振興計画											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	○ 直営 指定管理 業務委託 団体等補助 その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	外国人観光客及び市民	受益者数	— 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	外国人観光客の誘致による観光産業の振興		
概要	事業の実施手法、手順	外国語観光パンフレットの作成及び配布、海外旅行博等への出展、外国メディア・旅行業界関係者等の招へい		
概要	事業始期・終期	始期: 年度から	始期: 年度まで	設定なし ○
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 タイ語の散策マップの作成			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)		35,000	35,000	15,900	16,000	16,000	
総合計画計画額(計画額)		35,000	35,000	15,900	16,000	16,000	
事業費 (計画・予算・見込・決算額)	事業費		56,875	15,900			
	国庫支出金	44,358					
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担						
	繰入						
	一般財源		0	56,875	15,900		
			44,358	0			
	H17国勢調査	96,231 人 32,174 世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価				
	コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	—	—		
	コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	461	0		
	コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	1,379	0		
	指標	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人				
指標	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人					

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	資料・出展算出式	単位	
	活動指標	目標値	実績値	達成率		活動の方向
	活動指標	目標値	実績値	達成率		
活動・成果指標	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたのかを表す指標	指標名	外国人観光客数	資料・出展算出式	観光統計
	成果指標	目標値	実績値	達成率		成果の方向
	成果指標	目標値	実績値	達成率		

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	国内旅行が低迷する中、外国人観光客誘致の取り組みは、国の施策である「訪日旅行促進事業(ビジット・ジャパン事業)」と共に観光振興の重要施策である。	目的評価	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	B
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	(判定理由)	該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)	項目	②コスト面	増加 維持 減少
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	(判定理由)	該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)	③成果面	拡大 維持 減少	〇
			コスト・成果ポジション		
			B		
			第2水準		

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点	海外向けの広告宣伝活動の展開にあたり、より効果的なものを選択 外国人観光客のニーズ把握 広域観光ルートの開発
------------------------------	--

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了
活動の方針	国や県、JNTOや関連自治体など連携し、海外旅行エージェンツやメディアを受け入れるなど積極的な誘致活動や海外での旅行博への出展と外国人が一人歩きできる観光地づくりのため、外国人観光客の要望把握・ソフト面での強化、充実を図る。また各種交流事業と合わせ、魅力ある広域ルートによる招へい事業の展開をする。
次年度の実施方針	平成22年7月から中国人の個人観光査証(ビザ)発給要件が緩和されたことに伴い、中国からの誘客をさらに強化する。
総合評価	中 中 III
判断の理由等	「II」以上の水準に向けた改善が必要 外国人観光客の受入れ強化のためには、昨年度商店街振興組合が実施した外国人観光客のニーズ調査の結果などを踏まえ、外国人観光客が真に必要としているニーズを的確に捉え実施していくことが重要である。なお、調査結果では「散策時に自分の位置を把握するには橋などがメインとなるが、マップでは橋りょう名が外国語表記になっているものの、実物には外国語表記がなく不便である」などの意見が挙げられており、建設課など関係課との連携が重要となっている。また、実施に際しては市民・事業者の自主的な取組を促すことが必要であり、現状のコストを維持しつつ、高い効果上げることができるよう連携を深めていく必要がある。